

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた地域と共に生きがいのある暮らしが安心して出来るよう支援するために、スタッフと話し合い理念を作り上げている。また、理念に沿って入居者の気持ちに寄り添い、本人・家族の訴えにゆっくり傾聴し、深く理解するよう努めている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームプレート・玄関・リビングに理念を提示し、申し送り・定例会・研修時に問題提起、解決方法など話し合い支援につなげている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には毎月1回通信の発送。地域の方々には挨拶や、町内会に加入しイベントの参加や学生ボランティアの受け入れなど機会ある都度に説明・ご理解をいただくよう取り組んでいる	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩や病院への往復の際、近隣近所の方々に職員・入居者様で、あいさつ、声かけや公園周囲の清掃等において交流を深めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ボランティア活動で来て頂けるなど地域との交流がある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事に積極的に参加し、認知症への理解や、不安、接し方の相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることにより、サービス提供のあり方に常に反省、向上心を持つように心がけ、質の向上に努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を活用し、前回の会議で取り上げられた検討事項や懸念事項について経過報告、話し合いを重ね、サービスの質の向上を図っている。現在の取り組みの課題なども報告し、助言いただく。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談派遣事業・中学校の職場体験学習などの場として積極的に受け入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見人を必要とする方がおられないが、情報として、資料やパンフレット等をそろえ、いつでも支援できる体制が出来ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・ミーティングなどで、法令や通達の周知を行う等、認知症への理解を深めつつ、お互いの言動をチェックしながら、虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<input type="checkbox"/> 文書にて提示し、1つの項目ごとに説明後、質問をお聴きするようにしている。利用料金・起こりうるリスク・医療連帯体制など同意を得るようにしている。退去を含めた事業所の対応可能範囲についても説明を行い、理解・納得を図っている。	
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 受け付け窓口・責任者・第三者委員などの連絡先を提示。各階ごとに意見箱を設置。紙、ペンを用意してあり、定期的に確認をしている。また利用者からの声にその都度対応し、運営に反映させている。	
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input type="checkbox"/> 毎月発行の通信にて書面で報告を行っている。また必要に応じ個々に電話・書面にて報告、相談させていただいている。家族来訪時には利用者の状況や家族のことなど話し合う。金銭管理は出納帳に記入し、毎月書面にて報告している。	
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族交流会の場や通信・訪問時に常に問いかけ、出された意見・要望はミーティングや運営推進会議で話し合い、サービスに反映させている。	
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<input type="checkbox"/> 週に1回のミーティングにて、運営に関する意見についても広く耳を傾け、時間をかけて話し合い、反映させるよう、努めている。	
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<input type="checkbox"/> 利用者様の状態やニーズに合わせた暮らしを支えられるように、外出や通院など必要に応じ柔軟な職員配置を実施している。	
18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input type="checkbox"/> 管理者等の交代があったが、利用者様の混乱のないように、新スタッフで、情報の把握、コミュニケーションを図ることに時間を費やし、ダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の施設内研修計画を作成し、全員参加にて研修を行っている。また、積極的に外部研修に交代で参加できる環境をつくり、研修報告を提出してもらい、情報の共有を図っているが、職員の交代もあり、職員各自の段階に合わせた研修が計画的に行われていない。	○ 早急に計画し、段階的に研修を行い、職員のレベルアップを図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や関連施設などと交流会や研修資料の共有の機会をもち、情報の交換やサービスの質の向上に努めている。地域包括主催の勉強会等へも参加し、ネットワーク作りにも努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が入居者様と離れ気分転換できるようスタッフルームの環境整備と、職員間の親睦をはかるため新年会・花見・ボーリング大会・忘年会など季節の行事を催している。職員の疲労・ストレスに気を配り、人間関係を把握するようコミュニケーションを心がけている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回、施設長・副施設長・管理者・事務で報告、問題の提示を行い、情報交換・情報の共有を行い、職員がやりがい・向上心を持てる労働環境づくりに努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の心身状態や思いを傾聴することで職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	聞き漏らすことのないように、質問内容の吟味や訪問回数など考慮し、本人の意思とは別にご家族のニーズやご苦勞、思いをゆっくり傾聴することにより、サービスのあり方を検討していくよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の訴えですぐに対処できることから実行し、可能な限り柔軟に対応している。時には地域包括センターや他事業所のサービス利用の調整を行う準備がある		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	心身の状態に合わせた環境作りをし、少しずつご本人様の居場所が確立できるようになるまで内容工夫を怠らない。すぐの利用となった場合はご家族・かかわりのある関係者に来ていただき、安心感を持ってもらうなどの工夫をしている		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	活動意欲を触発する馴染みある物を、本人の経験や心身状況に応じて提供し、食事の準備や歌を教えていただくなど、同じ時間を共有し、共に支えあう関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況をその都度家族・親族に報告、連絡し出来るところでの協力をお願いし利用者様の支えとなっていただけるように支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況を家族にこまめに報告し、来訪時には本人と家族の潤滑油になれるよう気配りしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が単独で出かける事が難しいので、行きつけの美容室に家族に連れて行くようお願いしたり、馴染みの知人が継続的に来訪できるよう、いごごちの良い空間をつくるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士を隣合わせの席にしたり、お茶。食事の時間は職員も一緒に声をかけ、多くの会話を持つようにし、孤立しないよう見守っている。また、心身の状態によって座席の配置に工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等によりサービス利用が終了された方も、定期的に面会に行くなどし、関係の継続を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えの真意を推し量れるように、日ごろの言動を職員一人一人が把握し、希望や意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の話や家族・知人の訪問時に本人のライフスタイルや価値観など過去の具体的な情報を得られるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムの把握に努め、出来ることを1つでも多く発見できるように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が自分らしく暮らせるよう、本人・家族の要望を伺い計画を作成。職員全員で意見交換・モニタリング・カンファレンスを行い、介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況を評価すると共に、職員が記録するケース記録・日報による状態の変化や家族・本人の要望に応じて見直しをその都度行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌・申し送りノートを勤務開始前には必ず確認し、情報の共有化を図り、それらを基に介護計画の見直し、評価を行っている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の状況に応じて受診や医療処置の送迎・付き添いの支援は臨機応変に対応し、家族・本人の満足感が得られるよう努力している		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人が安心して地域での生活が続けられるよう消防や警察・民生委員との意見交換の場の設定やボランティアへの協力を呼びかけている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアやアニマルセラピーの支援を受け入れたり、本人の希望・体調・職員の意見などに応じて訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市町村への申請が必要な場合など、地域包括支援センターに協力をいただいている。また、活用できるサービスはないか等も相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医・利用以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助、もしくは訪問診療を受けられるよう複数の医療機関との関係を蜜に結んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関に認知症について相談・指示・助言をうけて対応しているが困難事例は家族・親族と相談し専門医に相段・受診の個別支援をおこなっている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関が隣接しており、常に健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また協力医療機関の看護師・医師と気軽に相談できる関係が出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻回に職員が見舞うようにし利用者様が安心して過ごせるよう支援している。家族とも情報交換しながら早期に退院できるよう病状の把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。状態の変化が見られるときに本人・家族の意向、気持ちの変化に注意し支援につなげている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を一番に考えつつ、事業所として「出来ること・出来ないこと」を見極めながら、安心して終末期をすごしていけるよう取り組んでいる。また急変時には速い対応を受けられるよう医療機関とも蜜に連携を図り対応に取り組んでいる		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい生活環境でも、これまでの暮らしの継続性が保たれるように個別情報の伝達、支援の内容、注意が必要な事柄など情報提供をプライバシーに配慮しながら行い、変化によるダメージが最小となるよう取り組みを行っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法・秘密保持の意識向上・徹底を図るため研修、ミーティングで、意見交換を図り、管理者が日ごろの職員の言動を点検するよう配慮に努めている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望が表せるように複数の選択肢を提示したり、理解力に合わせた説明を行い、日常生活の中で本人が決める場面づくりに努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはあるが、一人一人の体調・思いに配慮しながら散歩、入浴など行っている。また時間制限なく、家族や職員とお茶や会話を楽しめるよう努めている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替え・身だしなみは本人の意向で決めているが、自己決定がしにくい方や不十分なところは職員が本人の気持ちに沿った助言・支援を心がけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや苦手なものを事前に把握し、旬の食材やメニューを工夫することにより、食事が楽しみになるようにして行く。調理・配膳・片付けなど活動の場の1つとして取り組んでいる	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様一人一人の嗜好物を全職員が把握しており、本人の様子・時間を見ながら希望に添いながら、他利用者様への配慮も忘れずに楽しんでいただける工夫に努めている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の時間・習慣を把握し、本人の行動からも予測してトイレ誘導をすることにより、オムツを使用している場合でもトイレで排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲の良い方同士希望があれば一緒に入っていていただく、一人でゆっくり入りたいかたには時間に関係なくゆっくりはいつていただくなど入浴時間にとらわれず、個々の気持ちや習慣に合わせた支援ができる職員のシフトの工夫をしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促して生活のリズムを整えるよう努めているがその日の体調や希望も考慮し、休息が取れるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ・下膳やお盆拭き、テーブルをたたむなど本人の出来ることを把握し、お願いできそうな仕事を頼み、本人の役割の確立をすることにより、自分らしさ・今後に向けた希望を見出せるよう支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う場面を作るなどして支援している。希望や力に応じて、買い物の際に靴や洋服を選び購入していただくこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分に応じて散歩・買い物などに出かけ、気分転換や五感刺激が得られるように配慮に努めている。目の前に公園があり、日常的に外出していただけるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人希望の遠出の外出は家族・親族と相談・協力を依頼することもある。また希望の実現に向けて、予めの計画をたて職員の勤務の調整をとるなど実現のための方策を職員全体で検討し、支援につなげるよう取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用されるときは職員は席をはずすなどプライバシーに配慮し、希望に応じて日常的に電話・手紙を出せるよう支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、ご家族の都合のいい時間に訪問していただけるように配慮している。訪問して下さった方に現況をさりげなくお話し、間を取り持つよう配慮している		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りの際職員間、自分自身のケアを振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したような様子を気付いたら声をかけ、思い止まらせるのではなく一緒について行く・ゆっくり話を聞くなどの工夫をしている。防犯上、鍵をかける時間帯もあるが、ご家族にもご理解いただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守っている。居室で過ごされる利用者には居室に遊びに行ったり、時間で声かけを行っている。夜間の休憩は2階は全室が見渡せるスタッフルームで様子を把握し、確認・時間で巡回し利用者の安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの危険因子を全職員が把握し、保管管理が必要なもの、厳重な保管が必要なもの、などに分けて管理している。また利用者の状況変化にも気を配っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録。万が一事故が発生した場合、事故報告書作成し事故原因の究明と予防対策について見検討し、家族・施設管理者等へ報告、事故再発防止につなげている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設関連病院の協力をもらい、勉強会を実施。応急手当・蘇生術の研修を行い、全職員が対応できるようにしている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器・避難路の整理整頓など設備点検を定期的に行い、地域の協力を運営推進委員会で呼びかけている。年2回の避難訓練も実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについては状況の変化を把握し、ご家族に対応策をその都度説明、理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、心身状況に変化につねに気を配り、変化に気付いたらバイタルチェックを行い記録をしている。状況により医療機関と連携をとり、受診などにつないでいる。また管理者に報告し、職員間でも共有を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化がみられた時は詳細な記録・メモを取り看護職員、協力医療機関と連携が図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便のリズムを把握し散歩など身体を動かす機会を適度にもうけて、自然排便できるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、自立度に応じた介助を職員が行っている。就寝前は職員が手伝い、義歯の洗浄を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員間で情報を共有している。定期的に管理栄養士にアドバイスをもらっている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の事業所内研修を行い、全職員で予防・対策に努めている・各階入り口に消毒液を設置。来訪の方にも協力をいただいている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・台所水周りの清潔、衛生を心がけ漂白している。冷蔵・冷凍庫の食材の点検を定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはプランターを置き、季節の花を植え、地域の方々にも楽しんで頂けるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、音楽や食事づくりのときのにおいなど感じていただけるよう工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・小さめのテーブルをおき1人で、また仲のよい者同士でくつろげるスペースを作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品を居室に用意し、居心地のよい居室となるよう工夫している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様の様子に注意し、外気との温度差があるときは温度計と、利用者様の様子を見ながら調整している。トイレは悪臭が出ないよう換気扇・消臭剤を使用し、こまめに掃除を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に合わせて居住環境が適しているか常に見直しをはかり、活動性を維持するために車椅子を取り入れるなど安全確保と自立への配慮をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱を招くような環境因子に対して、補修・環境整備につとめている。わかる力を見極め、混乱や不穏が生じた場合はその都度職員でミーティングをもち、不安材料を取り除くよう努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にはプランターを置き季節の花を植え、外出時、楽しみながら歩けるよう配慮し、水やりを行うことで日中の活動に意欲をもっといただくよう努めている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が入居以前の生活と変わりなく、地域の中で生き生きと生活ができるように支援し、また共同生活の中で、孤独になることがないように配慮し、職員も学びながら・楽しみながら支援が提供できるグループホーム作りに努めています。公園が目の前にあり子供たちの声が響き、協力医療機関が隣接する好環境のなかで、生活していただくことができます。